

活動実績 及び 近況報告

< 令和8年度 > ～ Purple Lightning ～

☆ 武蔵野カップ2026 <カップ戦> [令和8年8月29日 / 8月30日]

≪初日≫

保谷高校 ○ vs × 成蹊高校
保谷高校 ○ vs × 大成高校
保谷高校 ○ vs × 明大明治高校
保谷高校 ○ vs × 三鷹中等高校

≪2日目≫

保谷高校 ○ vs × 小金井北高校
保谷高校 ○ vs × 法政大学高校
保谷高校 × vs ○ 武蔵野北高校

カップ戦準優勝！悔しさを次の力に

2年前、最下位。昨年、4位。そして今年は、「優勝」を目標にカップ戦へ挑んだ。

どのチームにとっても、夏の練習の成果を発揮する大切な大会の一つ。保谷高校も、この大会で優勝し、これからの公式戦で上位進出を目指すための勢いをつけたい。そんな強い思いを持って大会に臨んだ。

初日は、大差をつけて勝利する試合があったり、会場で一番大きな声を出して仲間を応援したり、チーム全員で大会を盛り上げる姿も見られた。

中でも大きな経験となったのが、明大明治高校との一戦。序盤から自分たちの流れをつくり、点差を広げるも、相手のDFの変化や猛攻に対応できず、同点、そして逆転を許す苦しい展開に。それでも粘り強くDFを続け、最後は3ポイントシュートで逆転。1ゴール差の接戦を勝ち切った。

ゲームの入り方、中盤でのゲームコントロール、そして終盤にどう勝利を引き寄せるか。公式戦につながる多くのことを学ぶことができた初日となった。

2日目の法政大学高校戦も、延長戦にもつれ込む大接戦となった。この試合では、なかなか自分たちのバスケットを展開できず、終始相手のペース。やるべきことを徹底できずに失点する場面や、大切な場面でのターンオーバーもあった。多くの選手がコートに立ちながらゲームをコントロールしようとするも、最後まで苦しい展開が続いた。そんな中、数字には残らないプレーでチームを支え続けたのがキャプテン。泥臭いプレーでチームを支え、苦しい時間帯でもチームをつないだ。試合は延長戦へ。最後はそこから点差を広げ、勝利。夏のこの時期に、こうした苦しい接戦を経験し、そして勝ち切れたことは、チームにとって大きな成長につながった。そして、唯一の全勝チームとして決勝へ。

しかし決勝では、それまでの激戦による疲労や怪我也有り、足が動かず、シュートも決まらない。最後まで自分たちらしいバスケットを展開することができず、悔しい敗戦となった。疲れやけが人があるのは相手も同様。気持ちで負けた試合。

結果は、準優勝。2年前の最下位から、昨年の4位、そして今年の準優勝。結果だけを見れば、一歩ずつ前に進んでいる。しかし、今年目指していたのは「優勝」。怪我などで試合に出られないメンバーがいたり、万全な状態ではなかったとしても、決勝の舞台で自分たちのバスケットを出し切れなかったことに、大きな悔しさが残った。ただ、この大会で経験した2つの接戦、そして決勝で味わった悔しさは、必ず次につながる。

ここからは、9月のU18、そして秋の支部大会へ。

接戦を「経験した」チームから、接戦を「勝ち切れる」チームへ。

そして、どんな状況でも自分たちのバスケットを貫けるチームへ。

今回の悔しさを忘れず、もう一度チーム全員で準備を重ね、万全の状態下次の大会に挑む！



☆ インターハイ都予選 < 5 3 期生 最後の大会 >

第1回戦 ○ 保谷高校 vs 府中工科高校 ●

第2回戦 ○ 保谷高校 vs 東久留米総合高校 ●

第3回戦 ○ 保谷高校 vs 広尾学園高校 ●

1, 2回戦は、ゲーム開始から、強くあたる DF で相手を圧倒することができた。3年生を中心に、ゲームを進めていき、多くの観客と共にバスケットボールを楽しむことができた。この2戦は、全員が出場し、会場を盛り上げることができた一方で、課題もあった。DF でのコミュニケーション不足からの失点や3Pをフリーで打たせるなど、修正すべき点はで見直して、3回戦へ。

3回戦では、相手のエースが大当たり。。。打てば入る。フェイスにして、苦しいシュートにしても決まる状態。。。3年生中心に終始足を動かし、頑張るバスケットボールを見せたが、止めきれず敗退。3年生はここで引退となるが、この3年生は本当にこのチームを支えてくれた。試合にできている選手だけでなく、その他の選手も誰も見ていないところで、掃除をしたり、片付けをしたり、本当によく支えてくれた。人の嫌がる仕事を率先してやってくれる3年生がいたからこそ、このチームが家族のような仲の良いチームとなった。本当に感謝しかない。

最後に、多くの保護者の方やOB、友人、先生方などに応援に駆けつけていただき、選手やスタッフ一同感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ、大会は続きますので、ぜひ引き続き応援のほどよろしくお願いいたします。



< 令和7年度 > ～ Purple Lightning ～

☆ U18 <公式戦> 4勝1敗 リーグ2位

第5戦	保谷高校 ○ 73 vs 65 ● 創価高校
第4戦	保谷高校 ● 70 vs 81 ○ 東京高校
第3戦	保谷高校 ○ 99 vs 66 ● 足立西高校
第2戦	保谷高校 ○ 116 vs 70 ● 目黒学院高校
第1戦	保谷高校 ○ 86 vs 68 ● 鷺宮高校

【第1戦 vs 鷺宮】新チーム初の公式戦。ベンチに入れなかった選手も含めて、27人で戦う保谷高校。夏の合宿や練習、練習試合などの成果を試す公式戦となった。序盤、自分たちのペースにならず、イージーなミスがでたり、シュートがなかなか決まらなかったり、メンバーを変えながら前半は展開していった。終始ゲームは保谷ペースで進んでいったが、なかなか満足のいくプレーができなかった。後半は、足をとにかく動かし、DFと速攻で点数を重ねた。15人の選手が出場して、約20点差をつけて完勝することができた。まずは、勝利をつかんだことで、自分たちの自信となった。

【第2戦 vs 足立西 / 第3戦 vs 目黒学院】ベンチ入りした18人全員出場し、勝利を掴んだ2戦。awayの中でも保護者の方の応援もあり、選手は自分たちのやってきたDFで相手を苦しめて、ターンオーバーを多くとることができた。課題であった「点をとる」においても100点ゲームができた2戦であった。フリースローの確率をあげて、3Pをとにかく自信をもって打つ。そのためには、自信をもって打てるだけの練習を重ねる。1戦1戦成長を感じられている選手もいる。全員が笑顔でバスケットボールを楽しめたことが一番だった。特に1年生の活躍が光った。



【第4戦 vs 東京】事実上のこのリーグでの決勝戦となった。かみ合わないプレーが多く出たり、緊張からイージーシュートのミスなど多くみられ、終始、相手のペースでゲームが進んでいき、最後まで保谷高校のプレーできず、悔しい負けとなった。また、できたところとできなかったところをチームで話し合っ、保谷高校としてやりたいバスケットボールを見つけて、冬→春に向けて1つの形を構築していく！

【第5戦 vs 創価】このゲームは、普段ゲームになかなか出られない選手を中心に、戦った。全員バスケットを目指して、心からバスケットボールを楽しむことができた。朝練、夕方練など休むことなく、頑張っている選手の活躍で勝利を収めることができた。全員がコートに立ち、いい顔でバスケットボールができたことが一番の収穫となった。



☆ 武蔵野カップ2025 <カップ戦> [8月30日 / 8月31日]

保谷高校 ● vs ○ 大成高校
保谷高校 △ vs △ 武蔵野北高校
保谷高校 △ vs △ 小金井北高校
保谷高校 ○ vs ● 明治大学附属明治高等学校
保谷高校 ○ vs ● 多摩科学技術高校
保谷高校 ● vs ○ 法政大学高校

27人全員が出場するカップ戦。とにかく、それぞれが課題としていることに向き合う大会となった。引き分けで終わるゲームや1点差ゲームで勝利したゲームなどしびれる展開もあったが、チームの集中力が続かなかったり、疲れが出たりしてうまくいかない時間帯もあった。
最終的には、たくさん出場している学校の中で4位という結果に終わったが、選手誰一人満足をしていないという表情だった。まだまだやれるという気持ちを強く持って、次の大会に挑む。

- < 令和7年度 > [インターハイ予選] 第3回戦進出
< 令和6年度 > [関東大会予選・インターハイ予選] 第3回戦進出
< 令和5年度 > [新人大会] 第3回戦進出
< 令和4年度 > [関東大会予選] 第4回戦途中棄権
< 令和3年度 > [インターハイ予選] 第4回戦 ベスト64

